

緑と清流のまち

わかさ 議会だより

第152号
平成27年
5月号
WAKASA TOWN

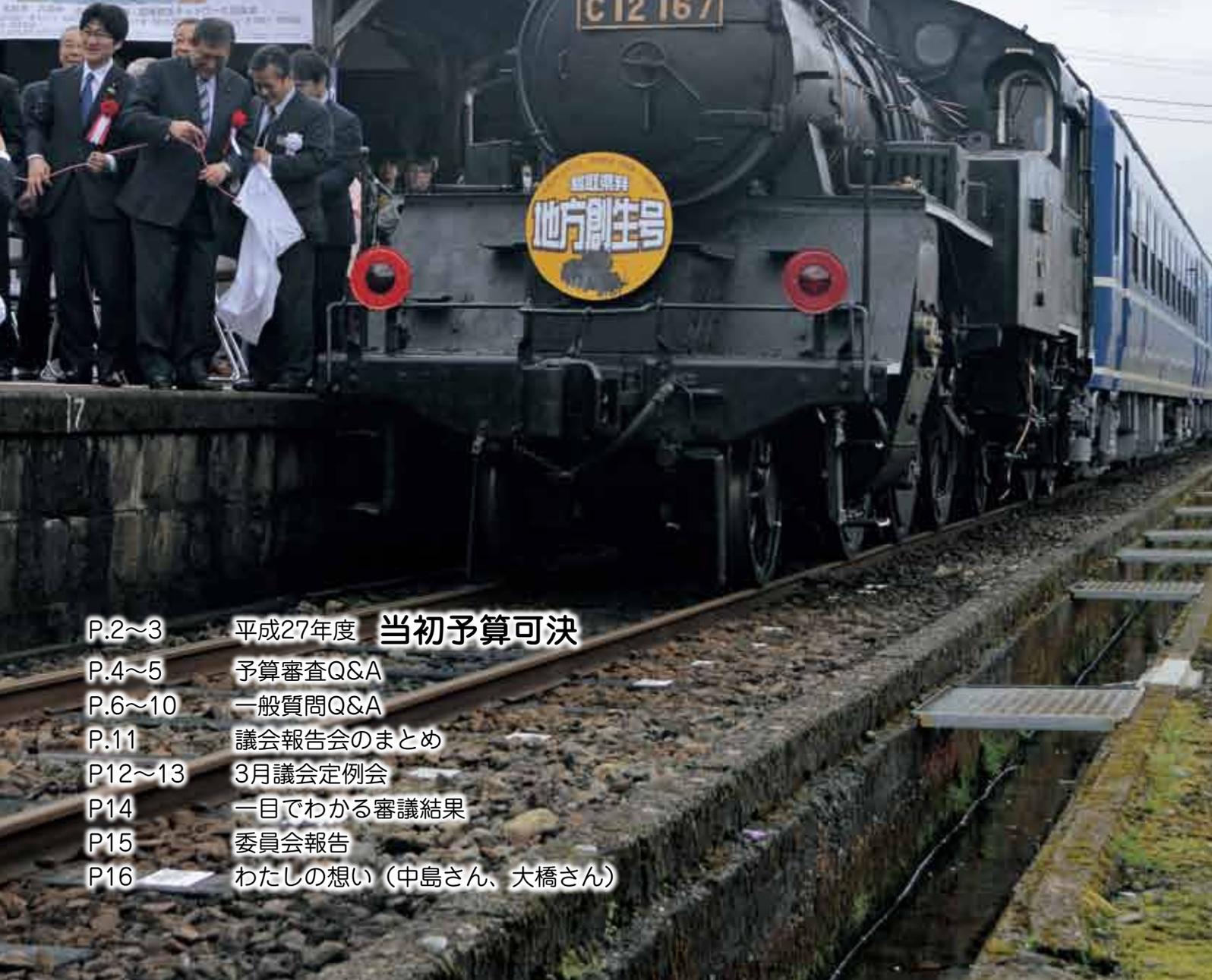


議会事務局のアドレスへ

走れ地方創生

若桜鉄道SL走行社会実験

若桜鉄道SL走行社会実験



- P.2~3 平成27年度 **当初予算可決**
- P.4~5 予算審査Q&A
- P.6~10 一般質問Q&A
- P.11 議会報告会のまとめ
- P.12~13 3月議会定例会
- P.14 一目でわかる審議結果
- P.15 委員会報告
- P.16 わたしの想い（中島さん、大橋さん）

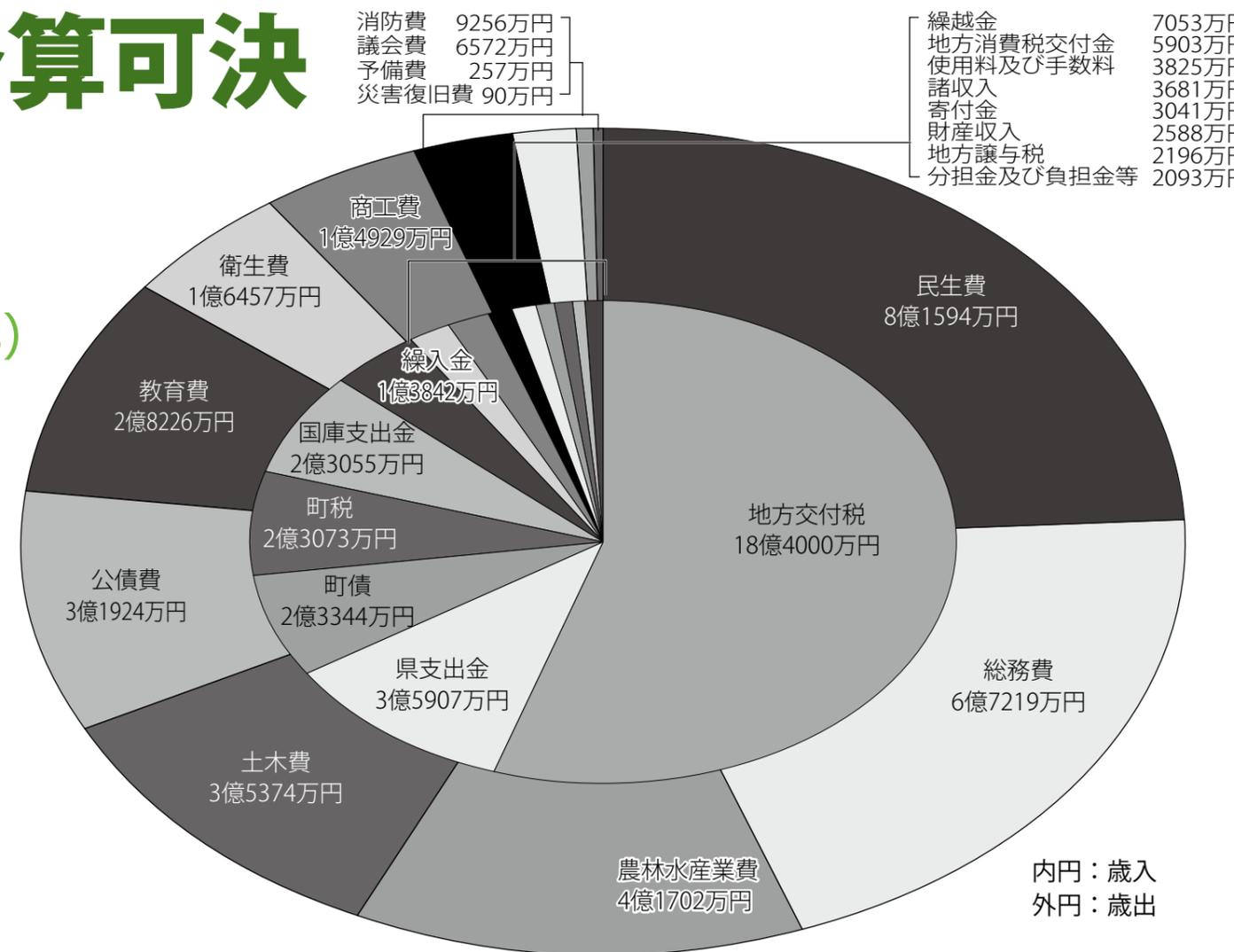
平成27年度 当初予算可決

依存財源
27億5123万円(82.5%)

自主財源
5億8477万円(17.5%)



予算審査の様子



議員全員で構成する「予算審査特別委員会」を設置し、平成27年 3月13日から5日間にわたり、審査しました。

委員長 山本 晴隆 議員
副委員長 青木 一憲 議員

平成27年度 予算決まる 地方創生元年

一般会計 **33億3600万円** 前年度比 **1億3200万円減**

特別会計名	予算額
国民健康保険事業	5億1600万円
介護保険事業	6億1910万円
後期高齢者医療	5691万円
簡易水道事業	1億7700万円
公共下水道事業	2億5672万円
農業集落排水事業	8564万円
赤松団地造成事業	720万円
財産区造林事業	1186万円
住宅新築資金等貸付事業	924万円
索道事業	5120万円

予算審査の主なる意見

一般会計

(1) 予算全般について

予算執行にあたっては、計画を立て、年度内の完了を目指されたい。

(2) 歳出について

① 交通対策費・林業振興費・商工業振興費
地域おこし協力隊の雇用にあたっては、事業の目的達成はもちろん、隊員の思いを十分考慮し、就労支援、環境作りや近隣住民とのコミュニケーションが図れるよう努められたい。

② 農業振興費

特産品開発支援事業は、交付要綱を遵守されたい。また、特産品として完成するよう指導されたい。

③ 有害鳥獣対策費

捕獲頭数の確認は、現行のままでは不十分であり、不法投棄の原因となる。確認方法の見直しが必要である。

④ 住宅管理費

町営住宅の建て替えにあたっては、住民への事業説明を十分行いながら進められたい。

⑤ 文化財保護費

若桜町伝統的建造物群保存地区選定については、各課の連携を強め将来に向けての活用策を考えられたい。事業開始にあたっては、住民周知が必要である。

特別会計予算

○ 簡易水道事業

施設統合等は事業費が高額となってくる。健全な経営となるよう、住民への事業説明を十分に行いながら進められたい。

予算審査 Q & A

その他の意見（抜粋）

企画財政課

Q 地域ブランドコーデイナーの役割について

A 産業振興、商工関係、阪南大学との交流など、若桜町のブランド化・特産品の生産から販売まで、現在3名の方にコーデイナーとしていただいている。

Q 若桜鉄道の乗車人員は増えているか。

A イベント列車など、取り組んでいるが、乗車人員に大きな伸びはない。



通勤・通学の様子

Q 平成26年度に計画していた健康マイレージは。

A 27年度には、関係機関と連携して実施したい。

産業観光課

Q 特産品開発支援事業でそば用コンバインの備品購入が計画がされているが、どの要領・要綱等によって計画されたものか。

A 現在の特産品開発支援事業の補助金制度では、例外的な措置となるため6月議会で、予算を組み換えて提案したい。

Q 農地管理の多面的機能直接支払の協定数が少ないのは、何が問題でもあるのか。

A 県主催の説明会も行われているが、中山間地域等直接支払とは別に計画書を作成しなければならぬので、取り組まれないのが実態です。

総務課

Q 南三陸町への派遣は。

A 全国で105人派遣される。本町では、戸籍関係の職員を1人派遣する。

Q 集落内の外灯設備のLED化について。

A 半分以上の集落が申請し、各集落が1年から3年間計画で実施している。

税務課

Q 法人税割額の推移が年々減っているのは、税率改正によるものか。

A 法人の収益減少と税率改正によるものです。

町民福祉課

Q 緊急通報システムは、どうなっているのか。

A 警察、親戚、近所の方に通報されるようになっている。

Q ゆはら温泉の、レジオネラ菌は大丈夫か。

A 定期的に検査を実施しているので大丈夫です。



ゆはら温泉



農地管理された水田



八幡広場

教育委員会

Q 八幡広場の使用申請は、どこが窓口で、どこで受付したらよいか。

A 教育委員会を窓口として、土日・祝日の受付は温水プールと町民体育館で検討している。

Q 土曜学習事業は、どのようなことをしているのか。

A 漢字、英語の学力向上に力を入れている。



Q 一般質問 A

詳しくは
若桜町ホームページ→各課のご案内→議会事務局→会議録



質問者
中尾 理明 議員
山根 政彦 議員
前住 孝行 議員
上川裕見子 議員
小林 誠 議員

3月議会定例会の一般質問は、3月18日に行われ、5人の議員が町政の課題について質問しました。質問の要旨と町長の答弁を要約して紹介します。



山根 政彦 議員

Q 町財政を考えると、全面的なりリニューアルは困難かと考えておりますが、傷みの著しい管理棟や休憩棟については、建て替えの時期にきていると思っております。来年度

小林昌司町長

Q 昭和63年に、樹氷スノーピアがオープンして27年になりますが、お客様のニーズも多様化しており、リニューアルする時期にきていると思うが所見を伺います。

氷ノ山関連施設

氷ノ山関連施設の リニューアルは スキー場施設のあり方 検討会で検討



中尾 理明 議員

Q 新ストープ等購入助成は、25年度7台の新ス

小林昌司町長

トープ、26年度は2台の新ストープ、2台の新ボイラー、1台のペレットストーブに助成しました。また、25年度に役場エンタランスホール、26年度には若桜町公民館と池田郵便局に新ストープを設置、いずれも来客に大変好評と聞いています。

木質バイオマス計画

木質バイオマス(再生可能エネルギー)利用の推進を!! 事業は順調で好評

25年度には、木質資源加工ステーション(ウッドイ内)に木質チップと薪製造用チップパー、薪割り機等を整備。26年度事業氷太くんへの、バイオマスボイラー整備は工事が遅れ、7月頃完成見込みです。チップ製造は、氷太くんのボイラー完成に合わせ6月頃生産を開始し、年間約1,000m³の若桜材を原料として250tのチップ生産を若桜木材協同組合が行う予定です。

木材人工乾燥機の木質燃料ボイラーは、従来



樹氷スノーピアゲレンデ

Q コース幅が狭く、必ずしも適切な場所、コースではないと思っております。現在、キャンプ場広

高木政寛教育長

Q キャンプ場周辺でクロスカントリー競技が行われていますが、現在のコースについて所見を伺います。

に設置を予定しているスキー場施設のあり方検討会で、十分検討してみたいと思っております。

場から町道桑ヶ線につながるコースを計画しており、このコースが確保できれば急勾配、急カーブにより安全面で心配のあった危険箇所が解消されると思えます。

独居高齢者の対策

空き家を利用し 共同生活の場を 前向きに検討 したい

Q 高齢化が進み、除雪作業が追いついていない集落があり、冬期間は外出できない高齢者の方もおられます。業者をお願いするなどの対応が必要と思うが、所見を伺います。

小林町長

Q 社会福祉協議会でも、高齢者の世帯や障がい者などの支援を必要とする世帯に対して、除雪ボランティアを派遣して家屋周囲などの除雪を行う体制を整えています。こちらも活用頂きながら、互助、共助の精神で、地域ぐるみで考えて頂きたいと思えます。

Q 平成25年度事業として、地域おこし協力隊による林地残材の搬出経費の積算等試みられたにもかかわらず、隊員の退職で事業が中断しています。これを継続してバイオマス計画の好循環を促すべきではありませんか。

小林町長

Q 林地残材の収集が、バイオマス総合利用計画の柱となる項目とは、考えていません。現在、八頭中央森林組合ではプロセッサーとか、ハーベスターという専用機械で、伐倒した後、枝の払い落としと、3mや4m等の長さの丸太にするまで同時に作業システムを主に取入れています。1本の木を、根元から先端近くまで丸太にして搬出するため、残材がほとんど発生しないので、地域おこし協力隊による、残材の収集プランは困難となってきています。残材の収集への町民参加構想の点でも、残念に思います。新しい協力隊員については、現在募集中で、ユニークな方からの問い合わせも来ています。隊

計画の波及効果

バイオマス利用 計画の経済効果 と雇用創出は？ ウッドイで従業員 増、燃料費削減

Q ウッドイで燃料費削減等経済効果も出ていますが、雇用に繋がった事例はありませんか。

小林町長

Q ウッドイの乾燥機ボイラー整備後、3人、4人を雇用したとのことですが、若桜町で雇用を増やすのは大変だとの話も聞いています。

Q 冬期間、独居高齢者が空き家などを利用し共同生活ができる仕組みを設け、仲間と一緒にいることにより生活の不安を解消することができると思いますが、所見を伺います。

小林町長

Q 集落にある既存の民家などを活用して、地域の方々のコミュニティの場所を、お互いが見守りながら生活をし、地域の住民の方々が主導となって運営して頂く、いわゆる鳥取型のコミュニティホームのような仕組みを考えてみる必要があるとは思いますが、所見を伺います。

農業問題

若桜米の ブランド化を 推進していく

小林町長

Q 若桜米のブランド化を進めるためには、他にない付加価値をつけ、町が先頭に立ちPRをしていく必要があると思えますが、所見を伺います。

員には、将来林業の事業体等に就業して活躍すると共に、若桜町内の集落に定住して、地域活動にも参加し、本当の意味で地域おこしの担い手となる様期待しています。

Q バイオマス将来構想イメージ図の構想で、何が欠けているのか。また、薪割機が有効活用されているのか伺います。

小林町長

Q 氷太くんのバイオマスボイラーの完成はまだですが、ボイラーが設置されれば、イメージ図実現への第一歩が踏み出せると思っています。今県東部でのバイオマス発電の動きもあり、チップの需要は高まると考えています。薪割機は、昨年の10月から森林組合が使用し、約3,000束の薪を製造していただいています。

その他、子ども医療費の高校卒業時までの助成について、米軍機の低空飛行訓練について質問がありました。

小林町長

Q 精米方法による金芽米や旨味を付加する熟成米など、収穫後の付加や有機栽培や無農薬栽培などの生産過程における付加、さらには棚田米等の産地としての付加価値など多様な方法があると思えます。これらの取組に対して町として支援できるものは、積極的に検討したいと考えています。また、農協など関係団体と流通販売システムについても協議したいと考えています。

Q 耕作放棄地を少しでも解消するため、来年度も取組を伺います。

Q これといった特効薬はありませんが、山間地域を多く抱える本町は、高齢化が進んでも貴重な農地を永続的に保全していくためには、担い手農家の育成と併せて集落営農組織の立ち上げ等、町独自営農システムの構築が必要とも考えています。

Q 一般質問 A



上川 裕見子 議員

Q 95%が森林、木材を伐採搬出し就労や所得につなげることは私も同感

小林昌司町長

Q 石破代議士が、疎地を元気にするために、農業、林業、観光が大事だとおっしゃっていました。私も同感です。バイオマス総合利用計画や木材の活用施策を推進するために、山を動かせる技術者の養成が急がれると思いますが、町長の所見を伺います。

続、木質バイオマス事業

技術者養成は 満たされているか 養成・確保の施策を 検討したい

です。岡部林業(株)は、5年で林業者が6名増加し、平均年齢が34・3歳。八頭中央森林組合は、本町の素材生産量増加に向け、若松事業所職員を増員する予定。今後も、林業担い手育成財団や、林業事業者が林業者を養成する取組みの支援を継続します。さらに、地方創生の取組みに向け、八頭森と連携して若手技術者の養成、確保、移住等の施策を検討したい。

Q 高性能機械等購入補助がありますが、機械操作の資格取得助成が附随していません。林業労働者の研修や資格取得の支援はされていますか。

山中泉参事

A みどりの雇用の研修である程度の資格は取得



森林施業に欠かせない高性能機器

Q 担い手財団のホームページに研修状況が出ていましたが、十分満たされているとの判断ですか。

小林町長

A 27年度八頭森が1万3,000㎡の材を出す計画で、32年には、2万5,000㎡が目標です。

1万㎡出すと20人雇用が発生し、機械を必要とする職員が必要で、

Q 一般質問 A



前任 孝行 議員

Q 鳥取県では、平成26年12月に認知症等行方不明者に係る対応ガイドラインが、作成されました。行方不明者を一刻も早く発見するために、警

小林昌司町長

Q 安全快適なまちづくりを掲げる若桜町に、実際行方不明の事件が起こったときの、行動計画があるのか。また、捜索体制の現状をどのように考えているか、所見を伺います。

行方不明時対応

行方不明時の行動計画は？ 県のガイドラインに沿い、実施要項作成も

察を初め、消防局や市町村等が情報を共有しながら連携して取り組むための具体的な内容を示しています。また、防災無線放送やあんしんトリピーメールで呼びかけを行い、不明者の情報提供を求めたり、消防団員等に協力を依頼して捜索を行います。行動計画は作成していませんが、ガイドラインに沿った方法で、捜索を考えています。

Q サポーター研修等もされているが、さらにはこれからの考え方を伺います。

小林町長

A 行方不明者の捜索に備えて「若桜町行方不明者の捜索に関する実施要項」を作成するよう、県警や東部広域消防、町消防団などと協議を重ねて

います。
Q キッズスペースを考えてはあり方検討委員会

氷ノ山スキー場誘客

Q 県外のスキー場では、キッズターゲットにした整備がされています。今シーズン行ったスキー場すべてで、ベルトコンベアで歩かず上がれる設備が、されています。氷ノ山でキッズスペースを考えてはと思いますが、所見を伺います。

小林町長

A 現在のゲレンデスペースを考えると、ベルトコンベアを設置できるスペースがないのも現実です。1つの案として第2リフトの右側のスペースを活用することも考えられます。新年度にはぜひともスキー場施設のあり方検討委員会を立ち上げ、意見を聞き将来の対策を検討したいと思えます。



ベルトコンベアで坂をあげる子どもたち

Q 雪マジ！19はいい企画だと思えます。それに加えて氷ノ山独自で、「若マジ！61」というような、61歳の方を、無料にしてはどうでしょうか。

小林町長

A シニア世代を狙った、面白い企画だとも思っています。しかし、スキー場の将来的な収益を考えた場合、雪マジ！19のような効果があるのか疑問が残るところもあります。現時点では導入は考えておりません。

行政評価、事業棚卸

客観的な資料の判断で事業改善・見直しを 行財政改革が先

Q 予算時における数値目標の設定や、決算時に実施事業を複数年度で対比するなど、客観的な資料による判断で、改善・見直しすることも必要だと思えますが、行政・事務事業評価の導入についてお考えを伺います。

小林町長

A 昨年3月、総務省が調査した地方公共団体の行政評価取組状況によると、町村では35%が導入している。行政活動や事業の成果を可能な限

Q 赤松団地町営住宅について周辺住民への説明をどのように考えているのか、また、若葉団地建替の住民説明は、いつ頃行う予定なのか伺います。

施政方針

周辺住民への説明は 地元の理解や協力は不可欠

Q 赤松団地町営住宅について周辺住民への説明をどのように考えているのか、また、若葉団地建替の住民説明は、いつ頃行う予定なのか伺います。

小林町長

A 新年度早々に、経過報告も含めて残りの分譲地の町の考え方を説明し、地元の皆さまのご意見を聞くことも考えています。若葉団地は4月に具体的に説明します。



Q 昨年、鳥取県の事業棚卸しの傍聴をしましたが、評価者になることでより行政に対する関心度が増すなど、住民参画の手法としていいと思いましたが、導入してみたいかがでしょうか。

小林町長

A 経費等の見直しにも努めており、国や県のよりに多くの事業があれば事業仕分けなど必要かもしれませんが、事業ごとの評価をすることで足りると考えています。

議会報告会のまとめ

平成26年第5回議会報告会は、意見交換を主に開催し様々な意見を頂きました。それら意見を協議・集約し、昨年12月29日に若桜町政に対する提言書として、町長に対し提出しました。また、その提言に対して新年度取り組まれる事業について掲載させて頂きました。

■ 若桜鉄道について

提言内容	取り組まれる事業
1 積極的な乗車運動を展開して、営業収入の増加を図る。	沿線地域の活性化を目的とする団体への支援を行う。
2 気動車のデザインや車内を一新して、観光列車としての活用を検討する。	若桜鉄道との協議が必要。
3 新たな利用者の発掘を行うため、イベント列車の運行支援を行う。	若桜鉄道との協議が必要。
4 蒸気機関車、ディーゼル機関車、客車を活用した観光列車の検討を行う。	S L 走行社会実験沿線サポート委員会へ支援を行う。
5 「見る」、「学ぶ」、「経験する」、「集う」、をキーワードにした鉄道公園を整備し、駅裏を含めた周辺の活性化を図る。	鉄道施設やS Lを活用し、団体ツアーの誘客や鉄道関連商品の販売促進の協力を行う。

■ その他

提言内容	取り組まれる事業
1 駐車場やトイレの整備と案内看板の設置。	多言語表記の観光案内板を整備し一層の誘客に繋げる。
2 地域の特性を生かした特産品開発の促進。	特産品の開発に必要な経費の一部助成を行う。
3 若桜米の積極的なPRと販売網の検討。	協議が必要。
4 関係団体と連携した獣肉の販売強化とジビエ料理の積極的なPR。	鹿・イノシシなどの資源を有効活用し、販路拡大や特産品としてブランド化するためのイベントなどを行う。
5 若桜町観光協会を中心とした観光メニューの開発や各団体との連携を図るための指導・助言。	協議が必要。

■ 人口減少問題について

提言内容	取り組まれる事業
1 若者向け住宅の増築と町営住宅の計画的な改修を図る。	若葉団地の建て替えを行う。
2 宿泊施設を含めた空き家の有効活用の促進。	空き家調査の継続及び相談対応。移住者への新築・購入・改修の助成を行う。
3 定住を視野に入れた地域おこし協力隊の拡充。	農林業への人材受入れと地域資源を活かした特産品づくりや商品開発を行う。
4 農林業の担い手を育成するための環境整備を図る。	意欲ある農業者に係る施設整備に対して支援を行う。
5 I T 企業や個人事業者の全国公募。	企業誘致や起業の設備整備助成及び就業者の雇用促進助成を行う。
6 通勤時間の短縮を図るため、国道29号の改良を促進する。	国土交通省へ要望活動が必要。
7 企業へ対する通勤費助成の創設と通学費助成の拡充。	通学費助成の継続。企業による正規雇用者の労働条件の改善助成を行う。
8 町内企業への設備投資等助成制度の拡充。	商工会による、にぎわい創出事業への補助及び新規創業・開業者への資金融資を行う。
9 コンビニエンスストアの誘致。	協議が必要。
10 医療・介護の態勢の維持・確保。	協議が必要。



議会報告会の様子

Q 一般質問 A



小林 誠 議員

小林昌司町長
A 平成27年度中に総合戦略を策定することが求められています。

Q 若桜町において、2040年の町の人口が15000人と、また全国で25番目に消滅をする町と発表されました。これから計画に入る地方創生の5ヶ年計画は、町の活性化、人口減少対策など、若桜町の特性を生かし画期的な地方創生案と考えます。今後どのように進めていけるのか、お尋ねします。

地方創生
若桜町の地方創生総合戦略の作成は議会と執行部が推進することが重要

められていますが、早く総合戦略を策定して、地方創生の取組みを進めたいと考えており、9月末までには総合戦略を策定したいと考えています。
Q この5ヶ年計画は、年度ごとの実績や人口目標達成が義務づけられ、実現可能な将来に夢のつながらる創生案が必要と考えます。若桜町の地方創生の5ヶ年計画は、日本一子育てしやすい町、宿内交流人口10万人目標を考えてはと思います。26年度、保育所無料から子育てしやすい町をアピールされました。若い家族が生活出来る場所も、定住を含めて、農業、林業を主に雇用の場を作り出し、また指導ができる受け入れ態勢も必要と思えます。交流人口10万人は駅周辺の整備で鉄道公園やイベント広場、屋敷川で川遊びの出来る場

所、資料館下に鹿の牧場など駅を挟んで古い町並みと国道側は子供達でにぎわう観光地にしてはと思うが、考えをお尋ねします。

小林町長
A 若桜鉄道や宿内既存施設、歴史的な町並み保存を通じた若桜宿内観光客10万人構想も上げております。また、子育てしやすい町を目指し、子育て支援のパッケージの中で若者住宅やその他の施策が盛り込まれるよう、検討を進めたいと思っております。
Q 私は将来の夢を描くに、若桜鉄道のS LやD Lの運行は欠かせないと思います。若桜町、八頭町の大きな地方創生の柱とも考えます。4月11日の若桜八東間のS Lの社会実験は今後を占う大きな意味を持つ実験になると思うが、考えをお尋ねします。
小林町長
A このS L走行社会実験により、見えてくる問題点や沿線地域に与える

影響を検証し、鳥取県や鳥取市・八頭町などの関係機関との十分な連携を図りながら、地方創生の大きな柱の1つとなるよう、議員の皆様も、協力いただきますようお願いいたします。

小林町長
Q 地方創生の大きな目的である、若桜町の活性化と経済効果を考えてみました。現在宿内に、宿泊ができる施設もない状況です。観光客が、長時間滞在していただくためにも、何軒かの宿泊できる施設も必要だと思いが、考えをお尋ねします。
小林町長
A 空き家が多く存在し、歴史的価値のある建物もあり、仮称町の迎賓館のような活用方法や観光客に対応して休憩、宿泊施設としての利用方法が出来ないかなど、可能性を検討していきたいと考えています。
Q 10万人以上の観光客が訪れる計画を作り、10万人以上目標を達成しなければならぬと思えます。町が活性化する

ためには収入を求めたおもてなし、サービスを考えるべきだと思います。観光協会、観光事業団、農林振興、まちがお金を出している組織だと思えます。それぞれがバラバラで動くのではなく、効率のよいお客さまのおもてなし、大きな経済効果を作るため検討議論すべきと思うが、考えをお尋ねします。

小林町長
A 多くの観光客が来られても、町の経済効果につながらなければ、町は活性化しません。議員ご指摘のとおり、私も観光客の受け入れ体制やお客様へのサービス、また土産品など不十分と思っております。商工会や観光協会に頑張っていたかなければ、活性化につながらないと考えています。地方創生への力量が試される今こそ、関係者の英知を結集して、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

三月議会定例会

平成26年度

一般会計総額

36億8293万円

9429万円の減額補正

予算

平成26年度若桜町一般会計

補正予算(第8号)
9429万円を減額し、総額36億8293万円とした。

主な歳入	
町税	316万円
国庫負担金	△1169万円
国庫補助金	△4638万円
寄附金	712万円
基金繰入金	△5690万円
町債	720万円
町有林管理	△486万円
ふるさと応援基金積立	702万円

公共交通維持基金積立	△1782万円
臨時福祉給付金事業	△791万円
介護保険事業特別会計繰出金	△774万円
後期高齢者医療事務費	△616万円
簡易水道事業特別会計繰出金	806万円
健康増進事業	△196万円
塵芥処理対策事業	△271万円
農業振興費	△731万円
緑の産業再生プロジェクト事業	2117万円
道路維持費	△657万円
町道新設改良事業	△1199万円
町営住宅管理事業	1056万円
通学対策事業	△193万円

平成27年第2回議会定例会が3月10日に招集され、町長から提出された議案39件、議員提出議案3件を慎重審議の結果、議員提出議案3案の議案の内、2議案を原案通り可決し、3月24日に閉会しました。

■平成26年度若桜町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)
1041万円を減額し、総額4億8065万円とした。

■平成26年度若桜町介護保険事業特別会計補正予算(第4号)
5707万円を減額し、5億4351万円とした。

■平成26年度若桜町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)
309万円を減額し、総額5340万円とした。

■平成26年度若桜町簡易水道事業特別会計補正予算(第5号)
134万円を減額し、1億2038万円とした。

■平成26年度若桜町赤松団地造成事業特別会計補正予算(第1号)
539万円を追加し、1609万円とした。

■平成26年度若桜町財産区造林事業特別会計補正予算(第2号)
151万円を減額し、753万円とした。

に関する条例の一部改正

国家公務員退職手続法の一部改正に伴い、条例に規定されている文言の修正等を行うもの。

●若桜町介護保険条例の一部改正
所得水準に応じてきめ細やかな保険料設定を行う観点から、国の政令が改正され、標準段階がこれまでの6段階から9段階に見直しされることとなり、国の基準段階とおり9段階とし、段階ごとの所得基準額についても、国の基準どおりとするもの。

●地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例
地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、一部改正及び廃止の必要な事項について、関係条例を整備するもの。

●母子及び寡婦福祉法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例
次世代の社会を担う子どもへの健全な育成を図るための次世代育成支援対策推進法等の一部を改正する法律の施行による母子及び寡婦福祉法の一部改正に伴い、条例改正を行うもの。

議員提出議案

- 若桜町議会委員会条例の一部改正
- 若桜総合戦略調査特別委員会の設置
- 年金削減の取りやめと最低保障年金制度の充実を求める意見書(否決)

■平成26年度若桜町索道事業特別会計補正予算(第2号)
36万円を追加し、3726万円とした。

条例

●若桜町教育委員会教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例の制定
地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正されたことに伴い、教育長の職務に専念する義務の特例に関し必要な事項を条例で定めるもの。

●若桜町八幡広場の設置及び管理に関する条例の制定
新たに、若桜町八幡広場の設置により、条例を制定するもの。



オープンが待たれる八幡広場

その他

- 若桜町過疎地域自立促進計画の変更
- 損害賠償の額(林道大通中江線落石事故)を定めること
- 損害賠償の額(町道新町3号線除雪作業事故)を定めること
- 公の施設の指定管理者の指定(若桜町立地域福祉センター・ドリーミー)

臨時会

平成27年第1回議会臨時会が2月23日に招集され、町長から提出された議案2件を慎重審議の結果、原案通り可決した。

○平成26年度若桜町一般会計補正予算(第7号)
6604万円を追加し、総額37億7722万円とした。

○工事請負契約の変更契約の締結
工事名
水ノ山高原の宿「水太くん」
パイオマスボイラー導入工事
工事場所
若桜町大字春米635番4
契約の相手方
鳥取市数津62番地2

株式会社 原田建設
変更契約金額
変更前 金 9363万6000円
変更後 金 1億299万9600円

若桜町立わかさ子ども園設置条例の全部改正
認定こども園法の改正に伴い、わか

委員会活動報告

教育民生 常任委員会

平成27年1月15日 閉会中の継続審査

- 意見交換**
- 若桜町新型インフルエンザ等対応行動計画(案)について
 - 協会けんぽとの提携について
 - 介護保険事業計画について
 - ストックヤードの回収品目等について
 - 赤松団地に建築中の賃貸住宅について
 - 健康広場(仮称)について

まとめ(抜粋)
介護保険事業では、基準段階が6段階から9段階に見直されたことにより、保険料の軽減になる対象が増える。

2月12日 閉会中の継続審査

- 意見交換**
- ストックヤードについて
 - 介護保険料について

- 交付金事業について
- 上下水道整備計画について
- 伝統的建造物群保存地区について

まとめ(抜粋)
交付金事業では、高齢者等灯油購入支援事業・多世帯応援商品券支給事業等があるが、単発ではなく継続してほしい。

2月20日 平成27年第1回臨時会補正予算等の概要説明

氷太くんのバイオマスボイラー導入工事の変更等、補正予算の概要説明を受けた。

3月6日 3月定例会補正予算等の概要説明

子育て支援センター設計事業・三世帯居住支援事業等は繰越となり、減額の補正予算の概要説明を受けた。

総務産業 常任委員会

平成27年1月14日 平成26年調査の総括

協議事項
平成26年4月から、委員会を11回開催し、町の課題・将来を描いた町づくりなど、協議、調査を行った。特に、農業問題(荒廃農地対策、若桜米のブランド化など)・観光振興(駅周辺の整備など)の今後の取り組みについて協議しました。

2月13日 八頭町議会総務教育常任委員会との意見交換会

内容
若桜鉄道の山田社長をお招きし、「都会の人から見た両町の地域活性化について」講演をして頂いたのち、意見交換を行いました。



意見交換会の様子

2月16日 観光協会との意見交換

- 意見交換**
- 新年度の事業計画(案)について
 - 観光関係団体との連携について
 - S L 走行の社会実験について
 - おもちゃ館・カリヤ横丁の運営について
 - 観光客の増加施策について
 - 中・長期的な将来構想について

まとめ
執行部、議会、各関係者などの連携を深めていく必要性を感じる。特に執行部との連携、情報交換については議会としても全面的に協力していきたい。

2月20日 第1回臨時会補正予算等の概要説明

プレミアム商品券発行事業・新規創業、開業促進事業等、補正予算の概要説明を受けた。

3月5日 3月定例会補正予算等の概要説明

氷ノ山集客促進事業・ジビエ促進事業等は繰越となり、減額の補正予算の概要説明を受けた。

一目でわかる 審議結果 3月定例会

● 賛否の分かれた議案 ○は賛成 ×は反対

氏名	青木一憲	山根政彦	山本安雄	岡田一弥	前任孝行	山本晴隆	上川裕見子	中尾理明	小林誠	結果 本会議採決
議案										
平成27年度若桜町一般会計予算	○	○	○	○	○	○	○	×	○	可決

上記案件の他に、平成26年度一般会計補正予算(第8号)など8議案、平成27年度特別会計予算10議案、若桜町八幡広場の設置及び管理に関する条例など、条例制定3議案、若桜町課設置条例の一部改正など、その他17議案を全会一致で可決しました。

みなさんからの請願・陳情はこうなりました

3月定例会で審査した請願・陳情の委員会・本会議での採決結果を報告します。

請願名・陳情名	請願・陳情者	付託委員会	委員会結果	本会議採決結果
集团的自衛権関連法案を国会に提出しないように求める請願書	憲法改悪反対鳥取県共同センター 代表 田中 暁	総務産業常任委員会	不採択 賛成 1人 反対 3人	不採択 賛成 2人 (中尾、上川) 反対 7人
治安維持法犠牲者に国家賠償を求める請願書	治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟 鳥取県支部会長 保田 睦美	総務産業常任委員会	継続審査	継続審査
年金削減の取りやめと最低保障年金制度の実現を求める請願	全日本年金者組合 鳥取県支部 東部支部 支部長 市谷 尚三	教育民生常任委員会	採択 賛成 3人 反対 1人	不採択 賛成 2人 (中尾、岡田) 反対 7人
中学校で使用する歴史・公民教科書の採択基準に関する陳情	教育を考える鳥取県民の会 会長 河合 鎮徳	教育民生常任委員会	不採択 賛成 0人 反対 4人	不採択
教科書採択改善のために、総合教育会議(設置)の準備に関する陳情について	教育を考える鳥取県民の会 会長 河合 鎮徳	教育民生常任委員会	不採択 賛成 0人 反対 4人	不採択

本会議の採決は、川上守議長を除く9人で行います。

請願陳情

請願・陳情は、町民の皆様が町政などについての要望等を、直接議会に書面で提出できる制度です。議長宛に議会事務局へ提出してください。提出された請願・陳情は関係の常任委員会で審査の上、本会議で採決し、採択された請願・陳情は行政に生かされます。詳しくは、議会事務局(☎82-2212)にお問い合わせください。

わたしの想い



このコーナーでは、議会、議員や議会だより等に関わる町民の皆さんからの御要望や率直なご意見を紹介いたします。

高校生になって

中島 光咲さん
(赤松)

私はこの春、高校生になりました。毎日市内に出て思うことは、確かに市内に比べて若桜はいなかくです。

しかし、若桜には他の所に負けないたくさん良さがあります。

私は若桜で生まれました。また中学校入学と同時に若桜学園となり、小中一貫校として3年間過ごしました。

一貫校の良いところは、小学生と中学生が関わる機会が多いので、とても仲良くなれます。3年間で縦のつながりが広がったと思います。

スポーツの面でも、少ない人数ながら毎日練習に励み、試合ではどの部も市内の大規模な学校に勝つというすばらしい成績も残せました。このような成績を残せたり、毎日好きな部活に取り組めるのは、先生と生徒との距離が近く、一緒になって目標に向かって頑張れるという小規模校ならではの特徴だと思います。

鳥取県には一貫校は少ないので、他の中学校には味わうことのできない経験をたくさんさせていただき、卒業した今、改めて一貫校でよかったなと感じました。

今、若桜はだんだん生徒数が減ってきていますが、充実した学校生活などをアピールして、もっともっとたくさんの人から愛されるような町になってほしいと思います。

若桜へきて

大橋 裕子さん
(西町)

四度目の春を迎えました。「子育ては田舎でいたい」ずっと思っていました。若桜は想像以上の田舎で初めは心配しました。しかし、親の心配もよそに子どもたちはすぐに馴染み、スキーも覚え、長い冬も楽しむ術を身に付け、たくさんの方々のお世話になりながら今ではすっかり若桜っ子になりました。

長い道のりの通学路も、遊びに行く時の近道も、町内で行われる行事のことも、親の私たちよりよく知っていてびっくりさせられました。特に驚いたのはスキーでした。スキーの板にすら触れたことのない子どもたちが毎日でもしていたくなるほど大好きになっていました。きっと若桜で生活をしていなければ、雪山に行きたくなることすらなかったかもしれません。大きな自然の中で、のびのびと成長していく子どもたちを見ていると「子育ては田舎で」は間違っていなかったと思います。まだまだたくさんあるであろう「若桜」を発見し、楽しみながら親も子も、もっと成長していけたらと思います。



自然豊かな若桜町

意見・写真をお寄せください

メール gikai@town.wakasa.tottori.jp

FAX 0858(82)2222

あとがき

春の統一地方選挙や若桜鉄道SL走行社会実験の話題と共に新年度を迎えました。

若桜鉄道SL走行社会実験では、鉄道マニアや見物客約一万三千人が沿線に來られました。経済効果は6月ごろに発表されます。

春の統一地方選挙では、平井知事が3選を果たされ、又県議会議員選挙では、51人が立候補され、新人9人を含み35人が当選を果たされました。

しかしながら、無投票の選挙区が全国で約20%、鳥取県でも3選挙区が無投票となり、投票率も過去最低の57.46%となりました。

議会だより調査特別委員会も新メンバーで一年経ちました。議会活動が、より身近になるように、わかり易く、興味を持って読んでいただくよう工夫していきます。お気づきの事がありましたらお知らせ下さい。

議長 川上 守
議会だより調査特別委員会

委員長 青木 一憲
副委員長 山本 安雄
委員 岡田 一弥
委員 小林 政彦
委員 山根 誠